

「生まれつきの盲人の癒し(2)」

ヨハ9:13~41

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①十字架にかかる前の年の仮庵の祭り(半年前)
- ②イエスは神殿を去ったが、まだエルサレムにとどまっている。
- ③生まれつきの盲人の癒しは、ヨハネの福音書の7つの奇跡の第6番目である。
- ④イエスは何人もの盲人の目を開かれたが、この箇所での癒しは、特別である。
*イエスのメシア性を示すメシア的奇跡である。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

「イエスは生まれつきの盲人を癒す」(§100)

ヨハ9:1~41

(3) 前回の復習

- ①イエスは、絶望的なケースを選び、癒しを行われた。
- ②その日は安息日であった。
- ③癒しの方法(つばきで泥を作り目に塗る)も口伝律法が禁じるものであった。

2. アウトライン

- (1) 肉体的癒し(1~12節)
- (2) 最初の尋問(13~17節)
- (3) 両親の尋問(18~22節)
- (4) 第2の尋問(23~34節)
- (5) 霊的癒し(35~41節)

*今回は(2)~(5)を取り上げる。

3. 結論:

- (1) 4つのメシア的奇跡
- (2) 「知っている」という言葉
- (3) 会堂からの追放

イエスは、世の光である。

II. 最初の尋問(13~17節)

1. 13~14節

「彼らは、前に盲目であったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。ところで、イエスが泥を作って彼の目をあけられたのは、安息日であった」(13~14節)

(1) 群衆は、目が開いた人をパリサイ人たちのところに連れて行った。

①群衆は、これをよい知らせと受け取り、指導者たちの裁定を仰ぐために動いた。

(2) この癒しは、安息日に行われた。

①パリサイ人たちは、命の危険がないかぎり、安息日に癒しを行うのは律法違反だと考えていた。

②しかし神は、安息日に恵みの業を行うことを禁止してはおられなかった。

2. 15~16節

「こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は言った、『あの方が私の目に泥を塗ってくださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。』すると、パリサイ人の中のある人々が、『その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ』と言った。しかし、ほかの者は言った、『罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行うことができよう。』そして、彼らの間に、分裂が起こった」(15~16節)

(1) この男の単純な証し

①あの方が目に泥を塗ってくれた。

②私が洗った。

③そしたら、見えるようになった。

④神の責務と人間の責務が表現されている。

(2) イエスとは言わず、あの方と言っている。

①イエスはエルサレムでは有名になっていた。

(3) パリサイ人たちの間に、意見の対立が起こった。

①安息日を守らない者は、神から出た者ではない。

②罪人である者に、このようなしるしを行うことはできない。

③パリサイ人の中のある者たちは、光を見出し始めている。

3. 17節

「そこで彼らはもう一度、盲人に言った、『あの方が目をあけてくれたことで、あの人を

何だと思っているのか。』彼は言った。『あの方は預言者です』(17節)

(1) 再度、この男に質問する。

①自分たちの間で分裂が起こっているから。

(2) この男の信仰が成長している。

①まだイエスを神とは信じていない。

②しかし、預言者と認めている。

・旧約聖書の預言者たちは、神から送られて奇跡を行った。

Ⅲ. 両親の尋問(18～22節)

1. 18～19節

「しかしユダヤ人たちは、目が見えるようになったこの人について、彼が盲目であったが見えるようになったということに信ぜず、ついにその両親を呼び出して、尋ねて言った。『この人はあなたがたの息子で、生まれつき盲目だったとあなたがたが言っている人ですか。それでは、どうしていま見えるのですか』(18～19節)

(1) パリサイ人たちは、癒しが起こったことを信じたくなかった。

①何かの手違いがあったのではないか。

②両親なら、一番よく知っているはずだ。

③本人なのかどうか、また、どのようにして癒されたのか。

2. 20～21節

「そこで両親は答えた。『私たちは、これが私たちの息子で、生まれつき盲目だったことを知っています。しかし、どのようにしていま見えるのかは知りません。また、だれがあれの目をあけたのか知りません。あれに聞いてください。あれはもうおとなです。自分のことは自分で話すでしょう』(20～21節)

(1) 両親は、責任を回避した。

①この男は、彼らの息子である。

②彼が、生まれつき盲目だったことは知っている。

③それ以上のことは、分からない。

④証言能力のある年齢なので、本人に聞いてほしい。

3. 22節

「彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていた

からである」(22節)

- (1) ユダヤ人たち(霊的指導者たち)は、イエスのメシア性を拒否していた。
 - ①もしイエスをメシアだと告白するなら、会堂から追放すると決めていた。
 - ②会堂から追放されると、経済的、社会的、宗教的基盤を失う。

- (2) 会堂が行う懲戒の3つのレベル
 - ①Neziphah : 7日間の追放
 - ②Niddui : 30日間の追放
 - ③Cherem : 完全な追放と社会的な交流の断絶。これが追放の段階である。

IV. 第2の尋問(23~34節)

1. 23~25節

「そのために彼の両親は、『あれはもうおとなです。あれに聞いてください』と言ったのである。そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。『神に栄光を帰しなさい。私たちはあの人が罪人であることを知っているのだ。』彼は答えた。『あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるという事です』(23~25節)

- (1) 「神に栄光を帰しなさい」の意味。2つの可能性がある。
 - ①誓いを求めている。自分が嘘をついていたと認めよ。
 - ②癒しのゆえに、神をたたえよ。イエスに栄光を帰すな。

- (2) 彼は、知らないことと、知っていることを、区別して証しをした。
 - ①イエスが罪人かどうか、知らない。
 - ②しかし、盲目であったのに、今は見えるということは知っている。

2. 26~27節

「そこで彼らは言った。『あの方はおまえに何をしたのか。どのようにしてその目をあけたのか。』彼は答えた。『もうお話ししたのですが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか』(26~27節)

- (1) 同じ質問を受けて、この男は苛つき始めた。
- (2) 彼の回答は、皮肉である。
 - ①話したが、聞いてもらえなかった。
 - ②なぜもう一度聞こうとするのか。
 - ③イエスの弟子になりたいのか。

(3) パリサイ人にとっては、これ以上の侮辱はない。

- ①無学な物乞いが、学のある自分たちに、意見している。
- ②しかも、自分たちが最も忌み嫌っている内容を示唆している。

3. 28～29節

「彼らは彼をののしって言った。『おまえもあの者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。私たちは、神がモーセにお話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らないのだ』(28～29節)

(1) この男の証言を崩せないで、証言している本人を攻撃する。

- ①お前はイエスの弟子だ。
- ②これは、最悪の罪である。
- ③自分たちは、モーセの弟子だ。
- ④これは、最高のことである。

(2) 神がモーセに語ったことは知っている。

- ①しかし、イエスがどこから来たかは知らない。
- ②もしモーセの教えを知っているなら、イエスをメシアと信じたはずである。
- ③モーセよりも偉大な方が彼らの前に現れたのに、その方を信じない。

4. 30～33節

「彼は答えて言った。『これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行うなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずですよ』(30～33節)

(1) 皮肉から攻撃への転換

- ①パリサイ人たちは、予想もしなかったであろう。
- ②この男は、自立して考え始めている。

(2) この男が述べた理屈

- ①パリサイ人たちは、霊的指導者たちである。
- ②なのに、盲人の目を開けた方がどこから来たかを知らないという。
- ③恥を知れ。

- ④神は、罪人の言うことをお聴きにならない(ユダヤ教の教えの中心)。
- ⑤あの方が生まれつきの盲人の目をあけたのは、神から出ているからだ。

5. 34節

「彼らは答えて言った。『おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちに教えるのか。』
そして、彼を外に追い出した」

- (1) 再び、この男を虐待した。
 - ①盲目に生まれついたことと、特定の罪を結びつけた。
 - ②そのように教えてはならないことを、ヨブ記は語っている。
 - ③この男に教える資格はあるのか。ある。彼は体験したのである。

- (2) 「彼を外に追い出した」
 - ①神殿の外ではない。
 - ②会堂から追い出したという意味である。
 - ③これは、Cheremの段階である。
 - ④この男は、あらゆる意味で、生活の基盤を失った。

V. 霊的癒し(35～41節)

1. 35～36節

「イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。『あなたは人の子を信じますか。』その人は答えた。『主よ。その方はどなたでしょうか。私がお方を信じることが出来ますように。』(35～36節)

- (1) イエスが彼を見つけ出した。
 - ①「あなたは人の子を信じますか」と尋ねた。

- (2) 彼はまだイエスが誰かを知らない。
 - ①彼の霊の目はまだ開いていない。

2. 37～38節

「イエスは彼に言われた。『あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。』彼は言った。『主よ。私は信じます。』そして彼はイエスを拝した(37～38節)

- (1) イエスは彼に、必要な情報を与えた。
 - ①あなたと話している私が、メシアである。

(2) 彼は、信仰によって応答した。

- ①ユダヤ人は、人を礼拝しない。
- ②イエスが癒し主だという理由では、礼拝しない。
- ③イエスが神の子であると信じたので、礼拝している。
- ④彼は、肉の目も霊の目も開かれた。

3. 39節

「そこで、イエスは言われた。『わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです』(39節)

(1) 福音の効果

- ①目が見えないと認める人は、目が見えるようになる。
- ②目が見えると思っている人は、盲目のままにとどまる。

4. 40～41節

「パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。『私たちも盲目なのですか。』イエスは彼らに言われた。『もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残るのです』(40～41節)

(1) パリサイ人たちの傲慢な質問

- ①これは、否定的な回答を要求する質問である。

(2) イエスの回答

- ①自分が盲目だと認めていたなら、罪の程度は軽かっただろう。
- ②しかし、目が見えると言っているので、重い罪がそのまま残る。

結論：

1. 4つのメシア的奇跡

(1) ツァラアト患者の癒し

- ①サンヘドリンによる厳しい尋問が始まった。

(2) 口のきけない悪霊の追い出し

- ①イエスはベルゼブルにつかれていると批判した。

(3) 生まれつきの盲人の癒し

①イエスを信じる者は、会堂から追放されるという決定がなされた。

(4) ヨナのしるし(ラザロの復活)

①サンヘドリンは、イエスを殺す決定を下した。

2. 「知っている」という言葉

(1) 登場人物たちが、「知っている」、「知らない」を繰り返している。

(2) パリサイ人たちは、自分たちはモーセとモーセの律法を知っていると主張した。

①結果的には、彼らは何も知らないことが明らかになった。

(3) 盲人の場合はどうか。

①彼は、律法に関しては無知であった。

②また、イエスが誰かについても無知であった。

③ただし、彼には、自分の目がイエスによって開かれたという知識があった。

④彼は、神を体験したのである。

⑤パリサイ人たちは、彼のその体験を論駁できなかった。

3. 会堂からの追放

(1) 歴史的経緯

①紀元70年までは、長老たちが共同体の中で裁き司の役割を担っていた。

②紀元70年以降、パリサイ人たちがその役割を担った。

③ヨハネの福音書は、紀元90年代に書かれた。

④ヨハネの福音書の読者の多くは、シナゴグからの追放を経験していた。

(2) 不信仰な世が私たちを追い出しても、イエスが私たちを受け入れてくださる。

①シナゴグの礼拝を失ったが、イエスを礼拝する特権を得た。

②ヨハネの福音書の読者たちには、大きな慰めになった。

(3) この話は、神を信じることに躊躇を覚える人にも、励ましとなる。